三篇

二筋道霄之程 全

1140

特 門 1140

二筋道三篇雪の袖序

二筋道とは三味線と六節と
南部三弦の連弾
なるべしとく諸流の集合
弾るものも出連もも出迄も

明治廿七年 月廿三日 購求

切なる習ひ古の人は本朝の法
多聲に二上りと称ぶれは三下り
をおろさる陽なる人は陽なる
とりハ古逸の名歌と
ふさ乱れの淫蕩さ

合きを結ぶ雅楽と推薦の
閑然たる音色をつまハ琴
歌謡柏子や嘯音嶽なる
多附子高り清り文白ハ昭
前ぎんとれ多くの文語と

息塾詩草紙亭記

夏の狂しの春を書と畫と

序言

作者

梅暮里谷峩

總目録

第壹　此段ハ　其　玄蕃の藏の冷　貧居の白雪

第貳　此段ハ　其　成蕃の長の相　青樓の白雨

第參　此段ハ　其　切蕃の收の去　井里の初嵐

第四　此段ハ　其　見蕃の髮の解　市中の春雨

二筋道三篇霄の程

梅暮里谷峨著

○第壹

冬のぞらん

新古今集に製して敷て更に
なのあわしらぬ蕃くれにひしてこれなるれば
とも杉ふるさとこれ程よ思ひしこそ日ま
くれい喜の中れ者なれとも見とてまと

上屋の鳥かや文里に一ト重にてうしおり
月ふれども又ちまきあるたれさてる
くるくるとまつまぢ風ヤハリ紀夕ぐれ軒端を
なつ源風の吉さいとあらく病みあれ
あんずる妻はやるせなくゆきとぐるる
看病の雪よつけ雨ふけ杉もひるまるる
しらぬ夢の泪先ぶらとそめ邪ヶ寄ぐ
これ〳〵お時てアそのやうて深切みてとらるる思ぐ

文里

余はいとゝ礼どころゝ思ひ出せば
是程新奇の物語の物語を一人の人
多くの人のくちよりも新しきを我婚ひやつとおぼ
しめさふ社罰ぐ今此ざ傷れとらふのをアート全
日くに粗面を知らぬ男社を花
ぶついとゝるゆゝ涼みなり引ぬ引き迷ひ剃
物ぶるゆゝ病ひづれ一日うれ紀めをゝ頃此ゝの
ゝれをゝ文なんとも物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

社憂艱難まざまの人々出来ぬ
海内騒乱なれども手柄無くそれもこれ邪智
ゆゑ杉五郎はどうと面目ない此世間をあるせう
なりいつそ病がもつとなり引籠居ばこそ
子供衆まつらうむせるふうとふ只それのみを形よ
ふぐいけとしやうと馬鹿よ杉五郎わらでも笑
勝負のなるまで伊勢参皆笑ひ合ひ
そうその此悪縁なる杉五郎ひきずりてあんまんして

くれろ

トそろ〳〵ろ後ろへ引きまはおとさま須の
虎三郎ぐ

[要お時] ナセそれはいまりしいまおくしやりまし文
のうちへゆうれあんまんは安房の後それがなんの孫
しまうふうそうや又おまつの隅のんート童さんとの
涙ひ中四つ時まる人さつて帰ふ杉五郎ふ初の内もと
しうつうんまる杉五郎おまつ大切さひまつと会

分別でもはらはら眼つき涙ハいと歌毎
もかるくはぐくんぜるなり様でくぶきんを思ひて
まつてほくまぐり貧のそれを毎のまいしらさに
れもへれくとしてはえぶく笑まぶし藤せらを
れらぐるを聲のらるむのをきもむのをれさ
はのを思ひまてらしまつさいぐんをらか
眼もあらしてもおあぐをていみまぐらしむ
かしまうるおそくと思ひて情氣もぐらへ

いつとを姉しうてはきゆまひとつふくくさを
もやうれとそれこ二人のまと言てるを
女めうまそうを普方ハおれ一ト言さん一日安坊
のれもひをせ沢生死をれ明をそかれこいまを
お居く倶くまれまへとをるれ時ハなんぼう
うをきうはよを知んにむうの法なハ思ふる
まふもはうふまをふぐんをまをおどをれをひを
しれ人れをれハうをうをすれをれをれ

馬疫とくり出さてそうり馬中に杉とあく杉りま
次よりしゞそのとゝ〇紙ひらぬらんようくりにゞ
てらもゞゞやう好い日〳〵痩杉くろ〳〵の寒も
ゆゝる疫病ハア一ト手ちんのうれとゝゝ
いらゞゞもうれくあれゞ世よある時ゝぬうんあ
まんが女の情しゝでゝ今でゝゝハいゝんせね
どのゝ妻憂敷〳〵せゝくゝ杉そうゝ洋も
家のゝゝもれ消もあゝりくあゝちよまぜゝゝと

くちあゝ〳〵意とゝゝまのゝ苦労とゝいうまは
ちゝゝゝりゝをね

ト実あゝゝ杉くゝ杉ゞゝゞ

文里 何〳〵河ゝのゝゝ杉きゝの伝庶今文貞
実ちゝゝ杉くゝゝ死んゞゝ生ゝゝれゝせね
陽ゝる田舎の一ト重がゝゝ杉ゝ男ゝくゝ杉ゝ
ゝゝ杉ゝ杉ゝ次ゞよ家ゞゞ杉ゝくゝれめいよ
妻 家恋〳〵杉ゝふくゝ杉ゝ初ゝ〳〵ゝゝハゝゝ

おせねばならぬ。慾目うきて孫どもはひとうめけめ
なく仲男中まさてこれく智恵も覚までなど
こうさまはおまさも今そのやうなる法者なりてて
無病にまの世をぼれハさいく勢りとハ様るいでも
こうしておりまらがたとしよりなれ法者人さまふ
結耳とこうさまさきるうめぶしもの法者ひと女子
ぞてこうさまは出るも宜よ所ゆこうぞ堪忍してこう
こうしてやきりまし

文里ハ云句のいろみも溪ようれをいと
きぬのくふつと目さめく後去ハかりの
部とはぞきこむのとさこうれど

文 稽やこうしてちこれとて[illegible]
こうんかこうん法ようる河ハあんもんけてこ
きこうこうハ物ふく[illegible]ふる経みキう去いてくぐ
さるな

トなどるきこうもゆるこうあんじるんに

なぐらある文里ふ〜姫ぎそんてるぎ
ゑ和ゑる法ゑ法ゑて
文 姫のゑゑいるゑ人ぞんるきいゑりゑハぞ
ひゑゑゑん形れれが心ゑぐんぞるきい姫ゑか
ゑで姫ゑぞゑゑハゑりくゑゑゑ様ゑゑから
如ゑ和親ゑナセゑのやゑゑ春りのゑやゑゑ
のゑゑゑ貞実ゑのゑつぐり本ゑハやつゑ春と
とハゑゑ人ゑと男へゑ〜親ゑ和ぞ〜わ和ゑ色ゑ

法の形げゑと形ゑ法ハゑゑ形ゑゑ
トゑりゑゑ男法形ゑゑハゑ人ゑ
いゑゑくゑゑひてゑゑとぞりゑ法
いぞゑ
文 姫ゑ〜や〜和ハゑゑ〜ゑ初ゑ形ゑてゑ
ゑるいモウなゑゑん形よゑくおゑゑ妻の菓ゑとやつ
てくりや妻これとやるかゑだまんる文てゑるいゑと
ゑつゑ〜法ゑよまで法せゑ姫ゑへゑんぞ形ゑ換姫くハ

ない可愛いこと　文　はやまるとよいだと
親とあるとこれとのやれいこいけよいこくくれ
るぶこのおやまハこと思ふねャラ　ぼくぼくとさせる
ま旧のめんもうぼれ迷ひ　関　こさんこのこしい
坊をこいぶこくあつこのかどこんのくれこおやま
こくおているの　文　こいい拙覚ぶっりや竹村の家中
の月こよ菓子こ　関　こさんはこちけおぐこんの所へ
ナゼ坊ハいこれこ坊もいここはこいのこんどこあ

こいこなあ〜
トセがゆる〜祖母おぐこ実のこ坊を
ひゆる文里こ妻の新こんぶ〜
文　アノ坊をかこいぶこくおぐこんハ田舎いこて死ぶ
いこまこ俗りぶまいぶこどであの大病ていハ全快トハ
おもこれぬそ坊ハちあの下へこいこであろよ　関　ナゼ
文　こいいぶこるこぶんてもまこころよ　関
アノ死こハ　文　死こハノやこれいくこいこのて坊

あるとふあられぬノサ 狐 おとつさんあるら 文 きとよ
とまる 狐のとて 狐 とれぞやアいつまでも〳〵
文 おぢさんがいきつ吹うれば ふがどもも
うくが あいぶまうとく 狐 とさんとうさんと
アおとつとアおぢさんとふぐんいつもよにいくひも
と 妻 ホンニコウ化ものあるさんまいつもよにあるく
らくいとハウいやさ世ぐうでひとつとうはよいる
なるまぐもうくなるそもおぢさんの病気

もとうさんの ほかんどもゆり
とまるまること〳〵袖とぐい
なるにめ〳〵しさサアきせうまもよ 狐 アハ〳〵
ぐとるのら
トいふ 部つく〳〵えつめる母うをなる
ぐとはとみうく
妻 おてよつれるとハいなぐ本弱布子ぬ〳〵い
弱なんのうれぐういまぐ拍ぐなんぼそういまれ

でもさおしく苦労(くろう)せバ心中(しんちう)でさぞしくおかつかぶ
ふ便(びん)ぞやモフしそのよふな外聞(ぐわいぶん)のわるいすい
忠義ともさんの御(ご)勘当(かんどう)さんゆりれハうん義でハ
あるともせぬ今(いま)そこしのしちとむんぼうしまや【婆】それ
それハまあ急ぐかもしれぬが【妻】こまりますぞもし【婆】モフ
いくつ親ぢもしよい風(ふう)でまそてかさおまへさんもまあり
はなし親さる【妻】モフいくつ親しあらまてぐふてぐ難
こちゃへそのまふにそのえんでまつ甲斐(かひ)もなふ難る

なの人ハ【婆】それみやれ法ぞしれぬが【妻】なんのまそでハ
あいのふ十ヨト十俵ぞ親る御もらうもよく難る
【婆】そうしろうきさんもとうもでそれ内ふ
おいでよ【文】まいるとおしこのさや孫がごさんぞれえし
しあてたいかるか様子ねで自殺(じさつ)とそお身に
ひしうと打そこしてありまさつハいないふて
うそふぬこれまでのあやまりあるもむするのハ古(こ)
人(じん)の打へ今(いま)よりまなひの表(おもて)れて白日(そくじつ)をとる

ぞうくなる事あらうもまつ〳〵一ト重うえハふつう
うくるまぢかぬ者ハ向き信のうえ人
ト云でハいとぞうくうてハ向き信のうえ人
くあ〳〵や一ト重ゑ深うあんが腸の者
ろうと妻のお時も程よう心づかいハ病
ふの仇いうくまくうあくさん
てもえうぞぬのもの薬やうの癖く
えうかうく

園もとへうえうが一ツの祈あるがうきいてかさうよ
うくく図一ト重うるかあるまづうるあるまつ
人におあらうくいる園そのひとくさんのう
なれどかるひこうくもを誘ふてハどあるうえしう
京から国ぬ者のこうくを田舎へいりてよい
うくうるひそうとうかうそチウトハ後もあうえあな
くくあるあんうくう定くう病人のお学ゆく
面倒でもあうよあまで廣くぞうりつい

てるでるまゝ只ぶまづいふゝ痛まれば
一すんなりゝ廊へいくまゝとゝいくあ
んどゝやゝもうすゝ 文 ほとゝいふとゝそば
ゝつゝたれたゝいふのゝ下ゝぐゝ
ゝいゝて修のあいほゝがまゝおすで
あゝつよ 妻 ゝまゝぐあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
お剣ひ 文 ゝれゝゝいつゝ 妻 まゝゝれほゝのねゝい
ゝいゝくゝよゝゝゝまゝゝでゝゝゝまゝ 文 まゝゝ

おゝゝもあいゝまゝ腰ゝゝほゝゝなにまでぬけゝ
形ゝゝゝ形ゝ一ト重ハほんまあやゝりゝのあゝ
よ形ゝゝふゝゝゝがあゝゝ 妻 ゝれゝいふもおゝの
ゝ大切 文 ゝれほゝかゝてにゝの馬鹿ゝゝゝふと
いゝもゝれ悪縁 妻 形ひ合ふゝ惚もあゝえ
文 モフいゝゝくゝゝゝん形 妻 ゝゝん ゝまい 文 イヤ
ゝゝゝ壁ゝゝ寝ゝゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけゝゝゝ 妻 ハイ 仏壇のあゝ

やとろうつける事

カナ〳〵

○夏貳

夏のぶん

序角者

笑夏冬の床の初夢に

春午の新板

浮篇ハ吉未ぬ

三篇ハ吉申ぬ

歳毎榮

其意中ハ　紀伊國や文里

三浦や一トト重

異見のみハ

古事記

赤ぶ

智恵三筋道三篇霄汎程

新編

筆や

初免

七情ハ人ノ備ル所ニシテ扨ハ情ハ奪
ハルヽ事ハ人ノ義理ニシテ互ヒ
の仇ニシテ生業ニ成ルヿ有ル外ニ
海ノ底ニ眼鼻ノ所身ニ成ルヿ有リ
ヲ取ト聞人ニ告ル意ノ二ツニ成ル
ヲ聞テ告ル淋ク意張ヘハ思ハ
入ヤ人ニ成ルヿ有ハ生業ノ勤ル
あ思ふ人ニ告ル と書ル

世の中に義理も恥辱もなくなるこのあ程強の
くもしたはいまあのそくやと筆に病みの三体迄
ものをもとめ揚げ先へ入れるより
口に出して部と人合ひ見て
わるくひやり目よ持ちのこと夕ぐれ
そもつ雪もなりしがやゝあつて

花の香

文里さんもふおいでなんさ初ア中ゝお出
そもゝいとくもおめふみる人さありいそぐ今

仲の丁へまいりしとて おあげん形なし 文里 おりとまあ
ありてゝう菓やのまへまで 家のとゝ方りまさ内所へ
らいてもあげりたひ 花の方 ナ 二内所でも 文里さんが
やうとまくたひとつと 居いでなんしてもさておりて
とゝしてハるひうち内所の客ゆでまてあげ
とゝして酒でもあげてくれろとうこけておき
なんしゆくうふおとゝ おあげなんなし 文ゑん
形うあげつてまゝあ侍ふうの 見世の女郎 サアくおあげん

なんし 文 うん形よそあげん 女郎大勢 のう
ほゝ〳〵

ト さうゝのうてとゝもあるに暖篇
形あけ二うゝあげり元のり場のやむ間
なとうゝ文里ゝこゝなれバうれゝたけて
うても夜形ゝうくゝるうのうゝさまで
なゝゝぶくむ牛りまて酒くゝるうて
めんくにうゝ行ゝとひ侍いぶ侍ふれる

まくらもとにある火ばちの引出
しからかみたばこいれをとりだして
ある機嫌もの 若者 まつたくおいて
なされましてもすこしもかまいません床を
とり屏風をたてに引出させてはこと
ならべる

サア〳〵

並 床とこ付まん

花の 文里えんりさんつアよくこられなんしまちかねほんに
一日ひとひでもおめへさんとおめへさんのうわさをして泣ぬ
日はござんせんでアござんせんでおまへさん
もおめへさんもおこられなんしてよりどうぞ気きむづ
かしくおこつけいなんしてさがりいたらぬ
ハどうでおかしく 文里 そんなことおもひなとおもろく
さ 花 アイサアいつそらほなおかしハおやちなんしさ
文 イヤなかなかれいづれてもいかく ほしね

[illegible]の[illegible]

[illegible]が山のふもつかりてをりはて

文 アアートとなくゆふぐれとしてより日頃

のおもひは百ばいまさるいとす

なれど男らしくもないはものふるく

[illegible]ぬ[illegible]のとみるくらをせう

ねくおめくるふるでうんでるさとき

[illegible]ぬまくらみたいあんらるる

人間とはおもれめへそれうおめつかこびつ

くれさ鈍なるれがはなふるふくるを

くくひやつゆへ一トをごるく形ふとおもふ

やうくひうくおもんかどふくさとれを

なくくくるやうはずるやうそのくるく

なくまほんふあこおもまでくろくとくると

形めくばうくそれど苦よたくくどの夜病

くあハくくどぬくくどよまくおくくと

嘲(てう)らふのをまゝとわかふしてたゞ大事(だいじ)
しられるほどやてゝあるところハ弥八ナ弥じやといふ
そのうへ弥んざふがちらとあつ坊ちやうそつて
国(くに)やかましいおかしらくさん二人(ふたり)の子(こ)
どもや わしらが親父(おやぢ)の如(ごと)く引(ひき)とつて
やつとそだてゝふそれぐハありがたし
若(わか)いものらあるそれを見すてゝもよいのかゞ
よくてつよ 花 わたくしがんじやうの中(うち)でさへ

あつかふのかげで わいらつさんうちむつから
しんし おかみやんがやかましいどうつもん
先(ま)んしくわしおかみでなりもんしてわ
られたのに なりあんまりなく
ト 云(いふ)こともの かへせば 思(おも)ひせバいとし
あるとなられそくどりゝかはなの
新造(しんぞう)八幡(まん)抔(など)よりとこくありしが
障子(しやうじ)のそこにいるぬとさくふり 袖(そで)

つねへおしおもてそのびなさきさるさの
ことのほれさまくてや
花「そこふゆるのハ八重梅さんでハねへか 八重梅「アイ
花「サア／＼おまへさりなんしな 八重「アイ／＼ 花「このま
ハ八重さんしいなりますな サア／＼おまいりなん
しな（ト ゆびきりしながら）おまへのかげんかしらずじぶんしんぼうし 文
里「さんぞうかうわまへれな おまへまあしなし
八重「それぞれさへまへさんそでもまつてゐる

いしとぶられしいヲツトわすれてゐり
ゐました おりいしと 文「そのお子ハこれまれぬら
いつもその 花「さんのまにつけていろ／＼
なにいろ／＼しのあるまでおきまあおもうし
とこうわいいしな 文「とゞり 一ト事にして ゐるま
ぞの 花「アイサおかいさんの妹ハ（ト 文里もとびろうすけひらき）
文「マアどふゆふわけかかりてんがゆかぬ 一ト

きら田舎へいつまでハさいたる新兵衛
こたいつまけうさ 花コイサ おくるまの
ちも涙のうねあらんれ瘤者のうちも
長殿さんをおうみさんも別更たよりさく
きいものくらいからいそたをたんこう
かいてくしておいのけなしたるんとゆめ
をあいふしうるめしておそ田舎の道具
すりを田舎の人らさいろやさくあいそなん
しうつる時いなんをハうまうを村くを
一とふのかあとまいふぶとこのうらく
うまれハ一ト重をいろなんしいかさく
あだうこあるハ大福てこはりやさて
いなんしいそのうやのかこいそうこ
どぶぜんてくなのお豊ハおくうあ
をあをなぶりやせんあのあとこる

めくら上総道中の百姓野辺送りのさか
駕をとりまくるようにもう稲刈りこれてき
たのきそれいく西新らかいうてちんの
ぶ[illegible]ふにそぐてあけた不がたくうなる
四七の時なきけらくを同じさに新く
ちハ[illegible]くそれうなのまハ与一といん伯父の
ぶるかくるとまるめくのかくくまたそく
だ新ちのあぐるもあまりがくれさ

ゑも陽る風のうなたれはるんの新さうの新
きやなのそうまいすまいとうなんまをこうたなんく
くかくそうやゆ伯ふうるうをこういく
とうろひるんくて新量くやくくひうつと
まさいり至るの花れ咲るうとなるめん物のる
ねくそそれめくさんるはうるせなんくてうそうく
ぜんさくてそうさんとびうるせ色ひ東垂れ
ゑなくくむくいなのの痛ひとうけハ実乃

親(おや)こそたから 文 一ツどふいふわけでござる
の 花 新造(しんぞう)もふ言も源氏(げんじ)の君おいらんの病気(びやうき)
めいちやよ馴染(なじみ)さんなりおくさんされ立進さんに
にゐんしてきてぶてよくいなるめくいふなくやつ
くしまひまつといふ間(ま)に縁(えん)みさくなども
あるめくとあてもおめくさんにあるせ
さんしくまうとさんを嫁(よめ)よせ給(たま)ひ年季(ねんき)まれ
なおよふむつかしいなのやまひゆく引(ひき)とる
ていろつせんよくるれハそふいふみ仕合(しあはせ)あれバこそ

わるいしゆゑしなさくなんでもこころよく浮気(うはき)
そせくやうつくしくしてみおちきんしやうし
身請(みうけ)がつくなりてどうかめりがめ縁(えん)がなく
ろいとて情(なさけ)とかよりにつれくるさ
られど馴染(なじみ)さんがそのしるまでハ許(ゆる)して
新(しん)くいろくにいぬしくとどぞ許(ゆる)
みきくきげむちはおめくいらぬくを
ある縁(えん)じ小名代(こみやうだい)の突(つ)き出(だ)しもあります

文 こんげんばらく往生をねがふあれそしてこの
ちくるそどんハあ[illegible]んハどもぶつ 花 ノ
こゝのよあるく形んさぶもいるゆふ文字さんに
ゆきるりを 金 つく 文 そのふちいろう移るハ
なるんハ形んぞりなの 金 イヽヘ 文 そして
いくら 八重 イヽヘ 文 やつぱり形んぞとおれを
くこゝのナア花の者さん 花 いゝこゝ
でハおつとんよ 文 こんなら明ぢでこゝ

こゝせくあんどこゝもやる 八重 アイイ 旦那さん
のかをんげで出ていらつしやるんてもよいかやや
こゝをこゝ そどわるのこゝやいそハ神ゝ
ぞゝりこゝいるくまをつくしまんてこゝ
んのこゝどくのあこゝばらや日ひあまるもの
こゝのほんふこゝさかめくこんのゆとこゝ
なんこんまハこゝく自由ぞなるゆ明こゝハあ
形こんぞりてハあこゝこんぞ知あちアでもかめくこんと

ゑらい銭くぐわそういをどふぞいつく盤く
かげでかんゑいしやくうらなんしても二銭の
んやうゑをかもつくもかくさんのめゑ字あり
どふでいく天箸ハかハうたく文まんのいて天箸
銭かつるいろ箸さんろ箸の文字ハよし
これならぬ糸みくらしていなられ又ハいく
いうつてもあるか金へ江戸まで八十里あまり
もあらかうく人をハきらしさうしにいなぬ

いつまんにみかいをうしらくくうらぼうさくい
るまでハかつゑんそしてあゝゑんハほせいしくう
ゑていゆるよ目つきそうして晩とそういそうう
いつぞうみくわぞ文錢人をほれてもえそうござる
めくがうしていくいくら金三十七八のさみ
えういゆかしゆるゑらいやわぞ文しまんを
しこてもこ両一くとめで花これでもこあ
もふみえしく錢の峰とらくうらさく

[illegible]
あしき病気を療治
のくすりにいさぎよ
ひまるいふなるものとどめてう
なるこれらハあるまめてるこれんあん
くいひとているくいとくなかかつくい
くふくすりもあふふと日くいれを待あ
一るなもつぶるなるゆくよまくね

[illegible]
[illegible]ハおもひ
一ト重うさん寅の時ハ
うとくいもよくく
トあるのようしてるるぐるる波りる
きるうなかいくるつ〻所をハなき
くぐ〻ゆまりなるなびさるハ八重梅ハ目も
るれ蓮をるくひうえりて物まぐれ
くいく漸のおまびうなるもなるれぐ

花の名はなにとなくうねなどの
花 八重桜 うんきう あこめ 紅梅 おくあ
いろんはなにはおめくまつのはもくがはる
ちりあくんはんじておいくまんいろはよ
ふるまいくくひとつとなくてるはてはこる
うおもせくかめ一年も丈まうて二歩
がくくあんじくせく はげるんを 文 こんう
ほくくくくもんまの花のうんのいくほう

たくうはくくはこるいサアぶるまうやく
八重 ひくくはんよあ紅梅と花のまんが真
ふるせくとるるんうをまるみくの
をでれ
言伝ようれはうづつくよくなんくよく
文里 こんうのふうい井はくれいのまるはずる
ひふぶん文里こんうり花のまうんうくよ
おくくいつぞはあにかりういくよおんが
うぶけはまかのまあいるてはめいくうい

せう〻ふかいく〻さまんぐほんよりげ下卍
ぐ〻おかをくさんや花の香さんいあらぬまく
あし〻見さへる嫁さんとも杉とつくおりいさ
ゆく西も東とされぬき廊くくまわめく
さんぐさとちさみてさてさんばきのまま
さんきちよいつくおくさんまんさき嫁い
さ〻ろ杉いや〻渡ぐでいさもと文さ
おもつてくれるら〻ろ杉いやどア一ト年ぐりふ

かさ二秋よいあさ〻ろく嫁よはさてさ
され〻く〻ア年ある年の実はある年の地
であつさぐさ〻ろにてあさるさ〻く伝ぐ
されさほんの嫁おからさかをつて
いさとハいさものくさ〻ゆ〻ぐ面て見
さハ伝ぐさりて杉ものくさ〻ろ杉い分み
一なりさ〻ろ 金重 ふんさく嫁さかをいか
さんぐさくさんさ〻ろ嫁こびさんさ

と杉どんハ 花 これまアおまへさんそうほんまかえ
あれハいやらしうて私(わたし)にらいわらしいきると
くるにつけてもおいらんのことをおもひださ
れて悲しうおすハいつその暁(あかつき)におきさしやう
あふに嬉(うれ)しいつとめしてゐるかいさんのいく
たのしさをおもひつづけている女郎(ぢよらう)くらしいこと
ときおんまん人(ひと)まてもよくいひかへていつく
らんまんうらぐと住居(ぢうきよ)あそびにいふこといかんやくそく時(とき)

きんとてもおくつハ杉どひなんそそづつまま違
どう好(すき)でもそうおもうてこらいまも暁(あかつき)の度(たび)
くあうへ人(ひと)づてゐなんのむしとのつみ衆
ほんにこりしぶうこ郷をされもとめる夜(よ)行(ゆく)
さぞやあんじまんせしと世贔屓(ひいき)にをえて一日
二日(ふつか)おくらしいつもとおきさきんおわらし
ころすまちへんてとも嬉(うれ)しくハ杉とひあてく
まあくあんまりい中(なか)が能(よ)るとくひよつと紅(べに)が

ゑとびつきてなれをなんやうとまつこそれら
あんじらるこゝろんみあさ陣いこゝ物ごと
つきまつくまてを意こそれ風のさ
る法ゆひられこゝ和がおもみてを男ゝ
ものいきんじ風ゝ山いとの紙が書ふ
十部一をおもひたのんやんものやこゝハみの
直筋をゆえみてこゝち一をきあんやうて
れを書ものゝ吹ゝをいづこゝハどゝて一す

なりとおんあめ天狗こゝるあり
こゝ角ごゝりて部こゝち七人ていこゝ足
書でこゝまるあるこゝのみけゝ一むゝぶ
おをゝく紙こんおお紙中ハこゝりてこゝ
中さいてのこんこゝゆでお紙中ハこゝぬこゝの紙を
相多てゝこゝりなこゝつくこゝはいこゝんこゝを
こゝゝゝいこゝあこゝれぬゝこんこゝのゆて氣を
こゝつこゝゝとひこゝくこゝてこんゝこゝてこゝれど

[illegible]根をたとひやまとせどおいんより[illegible]て
[illegible]る月のやつまさみッイ泣はるぬ[illegible]て
[illegible]かぐるまよふぐわるバナ因れとてと
そのとどりきんでぬくるまが[illegible]
[illegible]とつくしやちうそぐ[illegible]のうちま
[illegible]ぞつくるう[illegible]
にまりてくやんざ[illegible]
あり合るとたんばどバ互ひのおたまと

まつくやうちてよぐそ[illegible]れとちとつ[illegible]
いろ強[illegible]つ[illegible]ぞさせるハいく度う最のつ
間まいのしぶ次第つもるあらがやむ
ぞ[illegible]ひ[illegible]さ[illegible]ふ[illegible]さ[illegible]通海のまぬのと
一下市ハ多めまちのんぞう[illegible]ア[illegible]ぶ[illegible]く
おひさま[illegible]が人ぐ[illegible]ぶ[illegible]おのさんまか
[illegible]ん形ん[illegible]通[illegible]ハ[illegible]通海とてあげ
ヤいいたれどエウとくやうまくぶ[illegible]

なるほどいうわいんをせっちでわるでづい
しるるにもの名をいふのもおどしのくさ
をしぢくいわいうんもようきうんしておめん
さんをされて無れきんをやしてとその時ら陰さ
ちゃう海ぶち中世変や邪色やさ弁造所や
飛ものでうまるんぐのおれとおるのうち中
神さんよくぐうんとうけいしさぐるのやれると
ちぬるものいつうハ出でおうるきぐんだうてわるでハ

八重ホンニくぐねーいおうものハついおうれ
のうれまくるくうあうちハ打じとうれて
いうとうれどうれーとうとそのやうにうん
実よ部分のやれ方んとハ文里さんハくて
ぼうくものハ嫁さんハちやうやもれ愛敬みて
あるハアくうほうやけてのうくさ蛍びホンニ
浮せーいるものハナゼそれいぬであるら
人さんぐものそれーよ涼ちぐうれやさ

うちでとおもひあふみるこのあいだとおもふのはま
結やしらずまおかくる危ゆゝいやうにおんに
本はなる神仏のおもひおもうぬろうちめく
むかふひ求めしがるおくして因とかの中う面
こうす噂につけおれがうへ身子とりてハテエゝ嫉し
いふすでハあるいまさし人まいひとのハとめして
あんまハ女しえ紙あるかハ浮え怪のへんなかんでまえ
うつくなみ恵みかも出れどまち気からハ能こ事化

あらみふさ志れぬていゝぬまかとや夜志ほおして
とれ古モブ泣ぬうつおめへが古モブ泣くれ
めへよ花うらし古ち有く顔をおめにみせいしてハ
いぶおめへさんの家氏むきほれるうちみ孫る
それバわりんみうしいてハふ実とおもひきに
まつく怪奇ぐ家色を引きてあげヤいやうしと
おもってまちふつり志のひ泣みあり泣く
いてうかおめへさんにおゑみおうつりしてま

てき男ふうぜとおもいきいつくなかくとうみし
んぐおりいさ姉子まおいくんの姉といてを
ぐうくあけぐうりいさいくあ城出らおそ
文そくいくぐおれてをるぐるいつまてそを
くてがまへまさおとをるまるあんぐるかく
モウく男ひおくくいろくよ 童文里さんその然ハ
能性くみて行りいそぐやくをいつくをさぐめて
生よくふおつやくかく今貴斗ハかとまりあん

て赤くもに嫁さんの嫁さとくくをく
おくんまんしを
泣くくくくを八重揚げて然ぐて
文アハモウ河もいふまて男ぐれどエくあの形
独白ものぐまで二下ぐとくるに生写ぐ
くくくくて形ぐ今首八四人かく然ぐるば
おくのその時ハおりくく獲くてをとを
紙にて帰ん家ぐくくり切りけ出セハ 花わ

いんのいきんをまいそれほどかたりきん
きうくハ尋者よかうしゃいやくうこうけもそんぞ
よ猿とまちもちれあうとみいつのうあいそ
ぼうこせそれうとハうりゃおめくさんをいやいきん
きん湯ようなもいいちぐぎそくうい声上面て
いうなんセバ図こう病の面てハこうあれどすうちうこと
うひいもうえんちうちうえんの根ナだうこうの
うへ書状もまうこうれもうこうこうその根みいうい

うとうちうと吸へつぐあてぐひとうる紙す
つうこうと云ト図うるいるりあるうこうハ湯うまいい
いうきんを湯をうるり男ひ言下こうしてハいぐ
でおそぐうこいるもいつくハおめくさんを吸へ
もう外のうもハありいうきんと猿とうつくいうきんセバ
図りりゃアとれを吸へとと湯婦うう図浸婦去
いうそのうきんの吸へでハいしうこうおめくさんもお
時うんもうふうるめくとおうへぐ図そんぞう

見うしなハんと思ふ花 思ふてもあいて
うく 文 ウスがうふかうらうこ氣ゑ物でいと物さる
るまを家うはうこ人のいんできめて 花 人のい
りんて思ひ切るこまつかつきし 悠ハちいさんと
法ゑ形ぐらいくまへもハ 文 こいつぐにこもやるまを
いふこ堪もあいいこうひてこうみくかんじんのかる
方角まをれ 花 私ぐをとうこうさるヤラなにて
してむりに底へあるめかしてを 文 仰ら手歌ハ

そけあるねくきぐ沖じくと経歴を書こ形ひに
あしかねまふくこうれみちうまとハ耳をとれくも
こうくといふ間をあく別とあり 花 おめくさんのおら
こうりあんくさ寒くこうこうきれたんこう
してまぐ気にあるうれ歩くとあとうれこうり中岩
へあくいるくいぐあるこ山ヤョ 文 去年をの時比彩ぐ
うこあるうこんゑこうれとるたくばあのふませを
ものせあくまゑとせこくこうれでまを迎なくばし

ちはらんざる一ト重ヶ衣に八経文(きやうもん)をかきまよい功徳(くどく)
ありがたかりけるぞ
扨(さて)もひごろよりハまさにつまうちよの菩提(ぼだい)
夏(なつ)の始(はじめ)ハ撰(えら)みてわもとや去若衆聲(こゑ)
ふかしぎなとうれしやに逢(あ)ひぞ
らの後(のち)に和(やはら)げ扨(さて)心(こころ)をうつ絵あつらへ
筆をとる迄(まで)にを頭に迎(むか)ひまゐらせしを
あまり深(ふか)きおもひしゆくふかき

子を持(もち)て仏(ぶつ)前(ぜん)にさしいでうれしさ
のまゝハ仏も聞(きこ)しめしくと給(たま)ハ
く御ゆるしありて去年の暑(あつさ)のせつにハ日
あれもいとかうしく覚(おぼ)えいたづらに出家(しゆつけ)し
くおさんをとはりさへわか身の才を頼(たの)む
ちまく御(おん)所(ところ)にゆかりの事もぞ
いかりしより
ちかいまでもたのむんでの
るまでも仏にすゞあみへちかんとしや

ばくんとあく戦ひなんでハ御きゝ
ゝ時日本に外ゝあ〻ハ
トよくぐんの方ゝ和ゝるぐいろハ多て丑満
の二時ゝ三人と拾ぞき一ト番ゝ為目の安
か文里ゝ和ゝんゝ来ゝつゝばゝ者ゝ姉ゝ
図さて一ト番ゝとゝてゝいろ花君ゝ 上重 おめ〻さんゝ和ゝて
さゝ図ゝ上ゝゝれゝて来ゝるゝと飛ゝ出ゝて来ゝいゝて三人
ゝてゝくゝのゝで泪ゝとゝぼゝりゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ心

ゝひ泣げゝゝゝゝゝめゝの秋 上重 ゝれゝげゝあんゝゝり姉
ゝんゝとゝもゝく憂ゝゝゝゝゝんゝゝれゝぐゝゝまゝでゝゝいゝゝふ
花の多ゝんゝゝり八重桜ゝゝこゝゝゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝんハナ 花 ゝゝおゝいゝ人 文里 姉さんゝ
トゝゝゝハゝれゝゝゝゝゝゝゝ聲立なゝぐゝゝ
上重 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
礼をいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

してかくんめんもうなんかをしいさんかい
そのへおかねをかんようしゆへふいうおくゝとゝく
くれたのをうしいつにらうぬ見ゑさんのかをいて
床のくげんハないようをゝ花をくわめ〳〵ハ法恵とく
してかくんをんしをくゝ形やうせをなでを格やして
をつさなをつがをくゝとをんぐをを東ほをわゝをがを
ををげを絶ゝうをや義理づくををざうれくの
生ぐけをうれをなをさがうをいとワゝうれゝ人のと

ゝかをそれいをんかよをゝくゝやををを人がおをてを
をゝゝしをかをて花の香をんとハめを立ゆををゝう
をゝうてをゝをんゝどのやうをもうゝいうみやうでを
をくをゝをを方んをて仲の丁でを法の〳〵をふゝと
うく墨とをゝのをゝしゝを多年でおをて世上をに
花のうをさん妹とをて気をつけくやうくおんを
おをのををもしいをゝの〳〵をゝゝをゝしいれでををゝいを
文ををんをゝ〳〵をのをふおをいをゝををわをゝ

さんハナニカおもしろいものでき八きぬうとはんで黒八紙
あまさまのいの体ふ清くたち気と晴さんと思ふ
枕もの〻ふる視そうのそんもとそれまへ
ものこしらくて憂涙おしハふ仮ものておん
きん 文 そのそ体ぎしハ姉いうそん赤ものみな
ぐるてハまへそうーいるまうまあかるくあしけ
やしれ 笑 イッツ 癒きんしうぐこきうそしゆく
ぎくおくんきんしそく 文 内外のものみも云給し

てハいまそ無てくぐこりりてけ 笑 ととひさ
ぎものとそきけ岩水とてもあれくさ 躍るる
ばうふ武ともを伝初ふぐ一下手もうけて
ありいそにあいくーるくてもんと無 紙合形ハ論
うるる分しべハけ 此間ものせうそうれまび夢
あるけ、えるうちばうのそれるゆうそうせ
うそんぐしそ武ふ鏡そ赤さはかんぐきるい
ぐるやしておんきん 笑 そうて高氣そいうの

【一重】アヽそれハいゝお目出たいことへ神仏さんの御利生でござ
りまする有難しとハとりやんそうして分へともと
かすおめでたい〳〵其所におしもとへおくまつておかえ
さんし ホン二自由になるところへすこし金もひ
きつましていつまでも御寿命とさきに世今の
くらふと忘れさせ申すことをおもふくらへねさく
さまくなる御ゞくいろ〳〵仏さまへそれまで此ままひを
して居りいえ 因 ござくありましたこの時分十ぜそお

すれあふこともならずといふてくれる於とひ形のせ
へうとぎ申しまめて【一重】おめでたさんが悪しき迷ひ
してもらいその始めを於みえそかけいそう形を
あいそうとはしてわかんまんまる云夜すハ前に
つま世ぬるうちもそりなかうそのけてそれぞれ夏秋
乃アレもう鶴がなきいきゆく
あかね名残のやひなくも見返りつつ行
於とくハひつらかりさらく失ふ文里ハ

[illegible]

[illegible]

のおもしろかりけるを三人はゆゑの話に

[illegible]

[illegible]

文 [illegible]

八重 [illegible]

花 [illegible]

文 [illegible]

[illegible]

花 [illegible]

八重 [illegible]

[illegible]

[illegible]

花 [illegible]

[illegible]

[illegible]

八重 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

○歩三　秋のぶん

さて秋さるもののうれたそがれのうけて
さびしさうな田舎家の軒も漸く
と、ト雨まる今八郎里にもいとど病の
茶おもひやんうち好く虫なきて淋
しかれんとうの四方よりあしとろく
しける薄尾花の風の波うちもくれ
きうくおもひはてぬ別れて人のう

のうに枕うちの蟲いくさも好く
うちに母い淋まくれなくく
母[illegible]の[illegible]の[illegible]側に[illegible]明[illegible]伊之者
てうちの郷より注ぐ夫方又波の人はうてあふ
さじめのうち沈むなり隨分いとおもう
[illegible]るグナニクさ母にもとひつ[illegible]
[illegible]人よくく源ひ[illegible]と[illegible]為かの[illegible]
[illegible]てよのやうるおうくあくさまこうさ

ゑぶり側ふ居く看病しそしてとう〻肥えまさやうに
と今とそりてハとめそまふてそびの様子と
賀ノよ姉ようまるばさまボカ妹ようみたりどうく
きゆ下ふ中ひたゆうぬ〻やうまつり深き三りやこうとる牛て
ハまるい世間一流を明ハひとれとそれ牧みた憂
きそちれ牛ようくすき合拍もみさ
陽てそびぬを例てそる明のきつまきまき
きいわるしやう衣徹なる親父びのそりくれ

おぬがふ像うていちうまがけく神仏れ
ことりまてうまふ彩ぶ考ものもきぬふ晴うあ風
いうそびそび系の系ぶのそれお澄ぶまれ
そうそも情ようまうまうさ妹のお物ようても
おぬしかうに廊の細へそれうもどうう
うとうう言沒あるふ一ケ ケうれハ
うう物ハまるいまきそれんざうたりセハ朝も吹
と渡あしいがげくのうそハおぬがぶれて出ふう

この新ちハちんゝ世ゝ家のゝことゝ
ゝけゝひとゝハ物の物振ぐゝ
ト言をひゝてゝれど一ト言ハ性質優ふゝ

一重 モウゝ俳ふゝ俳ゝ
ふ者の発句俳ゝ
ゝとゝれゝ世ゝ
せいで書ゝ名のゝ
ふゝゝとゝけゝ
でゝすれた男ゝハ

ホニふゝいゝ性質切ゝ
まゝ世ゝの中ハ俳ハ都ゝ
世分世間ゝ
四 余ハ外の書道なゝ
ゝあゝふゝ
のふ意興新ゝ
つゝもせゝゝ俳の
ゝすゝゝ新
て好ゝ男ハゝ

ナレド家ヒトヽ ゆへてきも文里さ白ゝ此方此身のうく
往古からうるとほ〻ハくとと人〻の暮さへ嘉
でうるつゝやうゝばるゝ〻ハ湯温和ハ育さお人
ちもぐの業ハでうきまいし瓜ゝ多此ゝなれぞ
定て笑麻ちん体の多き孔ちも白風の
皆色ひとつぐうる中ハ人雇ひして家ゝのみ
の仮宜ゝ今時ハ嘉気ちもドウカおしてまいうや
うゝめて田舎のうゝゆくあ自西てまぶおうつく

遠ゝるく暮あうといつくおうせうきうのく
お糸とうるうの十嫁合とうつくんのうんきつハ
都の嘉気ゝうゝまるゝ時の嘉気もち
とうおとうれハ六里ち白ゝ方切ゝとうきまく
うれハうくく嫁ゝあうもドウモひとつふおいくハ
ゝと仇ゝまいつうんとうせうゆく長さんゝ
らおちうせうゝ世のくゝに嫁るゝゝ祠ゝ
これまでの縁くあうくゝ文里人のゝハ

さつぱりと思ひ切てこもとまく迷つてもないりやと
今度くこのふハ金ぐりまく外さぬんこて黄ハ
ちやまくぬるすぐる 上重 おゆきさんのりやたらばいぐん
ちの間てハこれまくいこそれど痛飯ぐのりハ
もうくこておくへ形んスナ 冊 エンノ吉冊もいくらいるもも
ないがいこそでなくぬもちハぼのおゆとぎゆく
黄ねバもぬとびくまとくふとかくくぐで
みこぐまぐれくまないこくくいすのぐいこ接

て吹日ハこそ和歌ざねくコレおふくろアーまな
正気もなく千ぐナこもたい命をアー虞ひ江戸
てくく持紙しまる 難病ぐんくいこにぬこハ
コリヤ浦ぐ陰じやきこぐこんこいゆくじやゆこれふ
嫁ものすと度くこ入てもぬてくこわと今に
あいこつぐないこくつこくえこんこやい野上西十
結のまれてる茶代のこれぬハこそくこれぐ
これかぐ好ナ酒とこつくアーじにタといこも

一ト市とのと芸ふと　ちふあてがみれでこそこう
うう茶とをがるあさとれが浮さ　姫されハ
おまこ今も同じこと　波乱ハをひ答ごされ
ともさくとでけがなりアまさがひとウで
の茶代ズツト負て二十両今達ふそこハ出で
おまいがトみくさもにくこ　ども
うう考へくこれハ神仏の法法もはらふが一つ
ハ病欲ゴ自のアゆじてゆくこ今又二つハ

江戸ハ遠ひ所ゆ不自由な片田舎ノ法華者
ちくちくこれそいかちゆもあくこれゆ　ちいど
ちくんととりはれまるすハ秋のいふまうく
うノ法あいいうのいとハたくうの痛欲で
のいふまこのはふ　ゆ姫ふせまちの接拶を
行とくこれこまんの去ナヤかハ鉢
ゆせあ　あくのはあけてゆくこ姫の今こく
姫ゆいやこても　秋の威光でゆひとませ

先年金映さまとやうやうあてられ
見がおてい恋むすめこもいてきぜほん
の返答と聞てうれ茶も老よりよいこゝろ
いよと聞ハ新父も江戸へ戻て夫伊き
ゝとふ思ひ殺すといへバうつと
待まるものゝ。あきぬ中程往生どもで
いやでおゝ新ゝとこひ耐をかんじて
痛い人さまのゝ引れて金映ゝてやや

ト義理と涙せト思ひ迷ふ人地も殺
の間一ト手ハ人と返答もそ泣沈む斗
みて悲ゝ涙とあるゝ

一重 かゝ人ハさゝ金ゝれど文里さんの手中ハゝて
ゝ惜ゝこみでなく互の実ゝつゝ思て八百
ゝ人目もまゝ恥ゝるゝ有ゝ様
しい程迷いゝて新の弁ゝ様ゝてゝ
と仰ゝくゝう外の家ハかゝもゝ

そく枕えあるあり おそそてなづくあく
みのくらあの源氏もいとゆかしくとりあはせ侍り後せる人をとゝまつみ
あるとばかれまき おもひやん庶流の物語
きえくゝ夢かとのこれいつハ松まつ人めれ稚
紙うしいとハきの西北にあいふこゝ侍なにゝてホンニ
清ゝかゝやの姫みまとの芳ふたゝひ仲丁
とゝさゝかく葉やゝかゝにはとあゆり

たゝふれさゝ姫 お侍ゝとゝあんざうひを
あふ侍五月北流産にせあり関ゝかゝあそ
容づくりも男の子ホンニそづてくるなるお二人
さんふも初孫とえをちはゝそ侍んゝて悦
ばせゝ姫ゝ侍ゝくゝ生ゝまゝそのゝを
如小姫ゝゝ乳を育てくゝ形ゝ別き方も
あふのにひさんなかゝのお茶て生いでもまひ
ゝゝゝ生るゝハ家オふ相伴ゝ侍ゝと為る

ぐ人なれどゆえつて申とゞけふもいやとゝ
くゝゝ形ハさゝハとゝ人もなアいヤゝふナゼ
私ハ此振ナ事でなそう母モウ云めふハそのゆゝ子
泣く〳〵ハ仰もいくませんハ大てのれ命おうと
る事なゆゝづ一ッ具ハ癖仰ゝのふ者と仕ゝと言ハ
義ゆゝうゝ義も立ゝらものゝとゝれゝハ
おゆゝうゝ一ッでゝゝもゝまるゝサアついあゝゝ
くゝこ此ゝゝとゝみけゝ立てもゝゝのゝねハ

此母と面会ゝあゝゝゝ

私と結ぶ[illegible]のおんハ[illegible]
冥加の程[illegible]
事なるべ[illegible]
さんとなして[illegible]
ちゝてくれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

山風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○寿四　寿の賀

茶屋寿の長国さまのこゝろぶくふぐうふと
の高砂国年賀祝ひてめでたくてうふ
ゆうれし文里が勤め帯毒もゐ体も新
寿も憂も国る梅櫻

親父　見たまの不孝ハ云て取ぬるとれもゆ八十八
トいうる年になれど寿ぐんかりハうのほうちゃ
孫等ばの賀の祝ひとさいうあに仏壇も改つ

る事おれ勤めとゆうてくれと親孫中の御云
うて各我事のうついせ注ふうくげて新寿ハ
気しくなれど上ハ寿くの通り新くも寿さて
やうぶい向も神ひ寿くれもまさふうハえの
い人ちよに勤て正とやおやナラヌ　文里　若輩ちなん
ごの中にお年うれこ寿二人自くに見ふ孝
今ろ六十上べくもなく勿体なく医年賀さつき
ひ命寿ち殺先ひこれ存上マス　四　勤寿

ゆるして礼をいふてさぶハ嫁女のことあの娘ハ不埒モノニ
あいそもつらいハ実ぢいとばゝ手ぬかあらうの
ものと言て育てゝ[illegible]ト[illegible]
[illegible]
[illegible]
母 コヤ、後もおそいもとゝ[illegible]
とゝんくるゝへ 村 イヱ今ゝ[illegible]
母 とゝいふ[illegible]
村 ハ[illegible]

それハ[illegible]
あまくさる[illegible] 母 [illegible]
なるゝ[illegible]
親父 [illegible] 村 [illegible]
[illegible]
の結構て[illegible]
病気[illegible]
[illegible] 母
[illegible] 村 外でもこゝらまゐせぬお多及

ごぜもごぞりすせうこ人と重どのそれも病気迄
田舎へいつくてやどなれどもなのをうハ互ふ仰れ
くのうの病気ゆくこれ上一と重のとも例ふ兎ハ
アこれ病気もうくなれハうのう病気も平癒
しこそもどこそ物ふ物空その変
とかこそみけれくどこみこの祝ごのと叶こ
けこそあ 契文 何なりとこく気ごやうのこ中ハ
てこそこいを一ハ後新こいまこそんほしてくれこ

こそ新こ利 時 この思合ハ中こごうまあがこれ
でこ一人こ必二人三人の合ふこるこ 文里 こ何とこ
こうこ 弱あいは基ふが先れハ中一の新ひが
あこあこ 対時 これハここなれどこれでハどこも
あんごらこ 文 こてごうをこく今こは文里ふこ
対時 これでこうこう案ごうこ面ぬ 文 イヤこうしてハわれ
ここ面白 対時 いやこうこ 文里 イヤこれが
ト互ふ義理の関谷さい中谷義ハ一と重と

引つゝ来わ

答義 イヤ引つ西叔ハ此の女ハ初てなのゝ者てゝ

とゝぐれの実情一ト重いとゝハ二筋ゝ初給ふ

筋ゝ要られバ何もとふさんぐとつまんぐ雷ら

色ゝ来ぬるなれど雷叔の名ゝ来れど初ゝ

お付ゝ来れ来ゝ彼ゝ捌ぐて一ハ二も

なれどゝ可ゝ来ゝ来ハお付ゝ来ハ誠の色

れゝ来ゝ利屈ゝ

ゝ引ゝ来ゝ人やゝ引ゝ来ゝ一ハ来ゝ

ゝ来ハゝれの叔ハ来ゝ来ゝ自と来ゝ

ゝ叔又二人や三人好ゝ人ゝ来ハ一ハ

ゝ来ゝ人ゝ来ゝ今ゝ来ゝ

ゝ来ゝ女のゝ来ゝ来ゝ

激ゝ来ゝ叔教ゝ来ハ皆ゝ来ゝ

答義 何も不足ハ来ハ 訳文 テ来ハ女ハ来ハ

ゝ来ゝ来ゝ来ゝ来ゝ来ハ 答義 ハ来ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女と系代まむり 母体より引とるハ色とうとけ
今快せで二度の勢とせうハナワト乳がうく
るて一貫八文ヶ十久のふる茅根ハ多ハ
ぐれ者も礼ハ礼サアはれ 【アん】コリアー お金二十五 【谷】
ナント不足ハ五ちのいく 【アん】ハ子一 【谷】 丸〳〵ぶ
めてくさてハヤ夏くハ約年の賀ロ 【文】 かんぐ丸
一銭ひよ 【お母】 一ヶるて金とらし一ト金ちと
サアいつまよに 【一ト金】 お二人さんハまづおんく 【親父】 娘女

【母】 一ト重ねうつ〳〵 お花女ち 【文里】 何ぞで谷
栽つゆ 【谷栽】 そのあいてハ痛今る 【アん】 狂言
ハアノ一ト市ま 【谷】 ちふやを
トうつ〳〵 改 物動
【谷】 おいやが吹とハ女街とナルヨリ〳〵
トまて拍子ふてうやさば痛飲ハ起ち
ゴ〳〵アイタ〳〵〳〳〳〳 奥ハ和ふうひう
娘ひうて下の書

大尾

梅暮里谷峩著

傾城買二竹助道

いろ男始めはわなられ後に突あれぶ男始めはふられ後まわ解る事さるなり

後篇 同廓之癖

時つきこまてちうひにぶくるうり事をつくしなわ事をうきさるなり

三篇 同霄月之裡

これもたうひうりひなふにたられあふられまた注無あれば隔るくきまるなり

傾城買猫之巻

女郎のうそをさいくれるようにうそをする事なり

白狐通

北とのの女郎の情うきあるの海をするおもしろき本之

契情買言告鳥　つとめのかしきすくなきもの

來　後篇言告鳥　[illegible]

酉　傾城買甲子夜話　甲子の夜ろ[illegible]

新　傾城夢之汗　[illegible]

版　鶴岡花撰帳　[illegible]

[illegible]